

# 同窓会会報

鹿児島大学教育学部

第8号

平成18年12月20日

発行

鹿児島大学教育学部  
同窓会

〒890-0065  
鹿児島市郡元1-20-6  
電話099-285-7711

## 在校生への支援を

### —第9回同窓会総会を開く—



平成十八年度第九回教育学部同窓会役員総会が八月六日(日)、教育学部会議室で開かれた。

松元会長は「今日は長崎原爆の日です。六十年程前のこの盛夏、県内の基地から開聞岳を見納めに、多くの若者が飛び立った。彼らは今日の平和の礎をなしたと思うが、その現在、若者の教育が大きな懸案となっている。我々同窓会はどうすればよいか。」という趣旨のあいさつをした。

松元会長は「今日は長崎原爆の日です。六十年程前のこの盛夏、県内の基地から開聞岳を見納めに、多くの若者が飛び立った。彼らは今日の平和の礎をなしたと思うが、その現在、若者の教育が大きな懸案となっている。我々同窓会はどうすればよいか。」という趣旨のあいさつをした。

そして、福島嘉久理事を議長として議事に入った。議事は、十七年度決算報告、同監査報告、十八年度事業計画案、同予算案、役員選任等について審議された。

在校生の納入については、学科の教官がたの協力を要請し、OBの同窓会未加入者については、年度毎の同窓会の世話役による加入促進に期待しているとの執行部答弁があった。また、繰越金や積立金の使途等が見通しについての質問などがなされ、会長から記念事業や周年記念全会員総会の展望についての説明がなされた。

鹿児島大学教育学部同窓会の会報も第八号を発刊することになりました。これはひとえに会員皆様をはじめ教育学部ご当局的並々ならぬご援助と関係各位のご協力によるものと深謝いたしております。鹿児島大学が発足したのが



### ご挨拶 — 「植福」の心で —

同窓会会長 松元兼俊

昭和二十四年で半世紀を経た今日、大学を取り巻く環境も大きく変わってまいりました。このほど、思い立って久しぶりに奈良や京都の古利などを訪ねてきました。古都の秋は深くとも紅葉

が濃く、見事な杉木立が続いていました。その見事なたづまいの中で私はふと幸田露伴がいう「植福」という言葉を思い出していました。「植福」の意味は将来に備えるの心配りについて言っているのです。つまり、将来に備えて何

が濃く、見事な杉木立が続いていました。その見事なたづまいの中で私はふと幸田露伴がいう「植福」という言葉を思い出していました。「植福」の意味は将来に備えるの心配りについて言っているのです。つまり、将来に備えて何

備えておくのであります。桜の名所などにしても大方は先祖の植樹のお陰であります。長い年月をかけて桜は大並木となり、花のトンネルとなつて人を呼ぶ。彼らはその日のために黙々と一本一本植樹し、雑草を刈り、丁寧に守

たる思いがしてなりません。むしろ、何て馬鹿な事をしてくれたかと却って恨まれることばかりしているのではなからうかと。

私たち同窓会の運営に当たっては、この「植福」の視点も大事な選択肢の一つとして心得てまいりたいと思っております。本年度教育学部と共催事業の「教育を語る会」は例年にも増して内容の充実した会であったと承り、教育学部の学生諸君の真摯な発表に感謝し、それをサポートして下さったOBの皆さんに重ねて御礼申し上げます。愚直かも知れませんが、わが同窓会は今後の方向性を示唆する事業をゆつくりと推進してまいりたいと思っております。

私たちが同窓会の運営に当たっては、この「植福」の視点も大事な選択肢の一つとして心得てまいりたいと思っております。本年度教育学部と共催事業の「教育を語る会」は例年にも増して内容の充実した会であったと承り、教育学部の学生諸君の真摯な発表に感謝し、それをサポートして下さったOBの皆さんに重ねて御礼申し上げます。愚直かも知れませんが、わが同窓会は今後の方向性を示唆する事業をゆつくりと推進してまいりたいと思っております。

1. 収入の部

| 区分    | 予算額        | 備考                      |
|-------|------------|-------------------------|
| 前年度繰越 | 13,102,961 | 会費内訳                    |
| 会費    | 4,100,000  | 18年度新入生 296名            |
|       |            | 17年度卒業生 64名             |
|       |            | 既卒者 50名                 |
|       |            | 計 410名                  |
|       |            | 410名×10,000円=4,100,000円 |
| 合計    | 17,202,961 |                         |

2. 支出の部

| 区分    | 予算額        | 備考                               |
|-------|------------|----------------------------------|
| 事務経費  | 480,000    | 賃金150千円、印刷費・通信費・消耗品等200千円        |
| 会議費   | 250,000    | 備品費130千円                         |
| 事業費   | 1,000,000  | 理事会、総会経費                         |
|       |            | 会報作成・発送費500千円、同窓会連合会分担金100千円     |
|       |            | 鹿児島大学の教育を語る会200千円、大学祭共催企画190千円   |
|       |            | オリエンテーション講演10千円                  |
| 總會準備費 | 3,000,000  | 總會開催準備基金(平成13、14、15、16、17、18年度分) |
| 基金    | 12,472,961 | 記念事業用積立金                         |
| 計     | 17,202,961 | 11,602,796                       |

平成十八年度事業計画

| 区分    | 予算額        | 決算額        | 増減額        | 備考   |
|-------|------------|------------|------------|--|
| 前年度繰越 | 12,322,796 | 12,322,796 | 0          |  |
| 会費    | 4,570,000  | 2,610,000  | ▲1,960,000 | 新入生 1,910,000<br>卒業生 0<br>既卒者 700,000<br>計 2,610,000 |
| 預金利息  |            | 64         | 64         |  |
| 合計    | 16,892,796 | 14,932,860 | ▲1,959,936 |  |

平成十七年度決算

| 区分     | 予算額       | 決算額        | 増減額       | 備考   |
|--------|-----------|------------|-----------|--|
| 事務経費   | 350,000   | 318,817    | 31,183    | 賃金、通信費、文具等                                 |
| 会議費    | 240,000   | 212,831    | 27,169    | 役員会、理事会、総会、同窓会連合会                          |
| 事業費    | 1,200,000 | 1,287,751  | ▲87,751   | 会報作成費・発送費、鹿児島大学の教育を語る会、語る会報告書、大学祭等プロジェクト経費 |
| 總會準備基金 | 2,500,000 | 0          | 2,500,000 |  |
| 会費返却   | 0         | 10,500     | ▲10,500   | 二重払込者への返却                                  |
| 予備費    | 1,000,000 | 0          | 1,000,000 |  |
| 計      | 5,290,000 | 1,829,899  | 3,460,101 |  |
| 次年度繰越  |           | 13,102,961 |           | 記念事業用積立金 11,602,796                        |

- 平成十八年四月六日 新入生学部企画オリエンテーション
- 平成十八年四月七日 鹿児島大学同窓会連合会
- 平成十八年六月五日 第一回役員会及び歓迎会
- 平成十八年七月二十四日 第二回役員会
- 平成十八年八月六日 平成十八年度同窓会役員理事
- 平成十八年十月 同窓会会報第八号の発行 発送
- 平成十八年十一月 昭和三十五年卒業生への案内
- 平成十八年十一月十三日 平成十九年度新入学生への案内
- 平成十八年十一月二十四日 鹿児島大学の教育を語る会
- 平成十九年二月 平成十九年度新入学生への案内







紙上対談

「深刻な青少年問題を考える」

最近、青少年にかかわる深刻な事件が多発している。小中学生のいじめによる自殺の問題、また子どもが親を殺傷するなど目をとおうことばかりである。このようなことは、青少年をとりまく家庭や社会環境の何が原因になっているのだろうか。今回は、卒業生の四人にそれぞれの立場から青少年の問題について、紙上対談をしてみました。

対談者



永田 憲太郎 (昭和40年卒) 鹿児島県議員

末広 純一 (昭和44年卒) 鹿児島市伊敷公民館長

福永 泰二 (昭和46年卒) 指宿市立西指宿中学校長

有倉 日幸 鹿児島大学教育学部助教授

① 最近の青少年の憂うべき犯罪行為の現状について

末広

「その国の将来を予測するならば、若者を見よ」と言います。私は犯罪ではないが、最近の青少年の立ち居振る舞い、服装、バスの中での化粧、ジベタリアン等々を見るにつけ、このままでいいのかわからず不安を感じています。

有倉

時代を問わず、どのような犯罪行為も憂うべきものではないかと思えます。ただ、警察白書等の統計を見る限り、青少年の犯罪行為は、昭和三十年代、殺人が十代の少年十

人あたり二人以上であったのが、最近十年間は〇・五人前後に、同じく強姦は二十人以上だったのが、三人を下回っています。メディアの影響から私たちの体感治安が低下しているため、青少年の犯罪に過剰に反応しているくらいがあります。

永田

警察発表の少年白書などを見てみると、次のような点の問題だと考えます。①全刑法犯に占める比率が高い。約四割となっています。②非行の悪質化・凶悪化が強まっている。しかも極めて普通の家庭の子どもたちによってなされるケースが目立っています。

③ 万引き、自転車盗などの初発型非行や「喫煙」「飲酒」「深夜徘徊」などの不良行為の検挙が非常に高い水準にあります。

福永

中学校では、嫌なことがあると、直ちに「ウザイ」とと暴言を吐く、人や物に当たるなど攻撃的になるか、逆に引きこもってしまうなど、考えることなしに「即行動する」生徒の増加に悩まされています。加えて「先生、あのね(自分を振り向いて欲しい状態)」の生徒がたくさんいます。

このような自己中心的で我

主義は育っていません。育っていないというよりも、根づきにくいのかもしれません。しかし戦後、行動のパターンだけは、欧米型の個人主義を受け入れてきました。

福永

本校の実態(私は価値がなにか他人より劣っていると思う)「よくあてはまる三九%、あてはまらない四五%」「よくイライラする」↓二二%、五一%、二七%、「死にたいと思ったことがある」↓ある三八%、ない六二%。「死んでも生き返ると思うか」↓生き返る一五%、生き返らない八五%は、自己存在の薄さや愛情欲求への不満を訴えています。周囲を思いやる心の余裕などないことが問題の背景に潜んでいると考えます。

② 青少年の犯罪行動の主な原因は、何でしょうか。

有倉

直接的には、犯罪行動は他者の利益や幸福を奪うもので、相手の視点に立っていない利己的な見方や行動だと思えます。しかし、間接的な原因として、人が人と関わらなくなった現代の社会や経済、文化などの問題を挙げたいと思います。

末広

たとえば、バスの中での化粧についてですが、北海道大学の澤口教授は、周りを気にすることが原因であると言っています。私は幼少時、家庭できちっとしつけられなかったことが最大の原因だろうと思います。一言で言えば「家庭の教育力の低下」ということになりそうです。

ろです。また、今、低下しているのであれば、元々は高かったはず。地域に向向いての老人会では永年に亘る豊かな人生経験者として、祖父母の知恵を孫育てに生かしていただくよう依頼しています。

福永

日常生活が生き生きとなれば問題行動は減少します。そこで、生徒が人間関係を築く力を身に付けるため、①さわやかなあいさつができる。②自分ができていることを探して、少しでも実践する。③「ありがとう」の言葉がたたくさ

④ 今後の青少年教育について提言をお願いします。

福永

子どもは、人格や生き方観を、日常生活の中で少しずつ形成していくこと、また、多くの人が取り組めることという視点から、現在PTA等が提唱している「早起 早起 朝ご飯」があります。この運動の下で、正しい姿勢や言葉遣い、和食など、できることを推奨しているところです。

末広

女優の森光子さんが「心に筋肉をつけましょう」と言っています。私は、心にはブレーキをかける筋肉が必要だと思えます。幼児期から善悪のけじめをはっきりさせ、自分をコントロールする力、つまり我慢することやルールを守ることを

映画 「北辰斜めに ちすところ」

この映画は、題名からも窺えるように第七高等学校造士館と第五高等学校との熾烈な野球対抗戦を題材としたものであります。その中で、教育熱心な「さつま」の風土が語られ、ドラマが展開されてまいるものであります。

有倉

かつて、七校のエースだったという役どころの三国連太郎が関東地区の有力な高校球児である孫に七校時代のことや薩摩のことを語り聞かせるうちに、孫は東京六大学への進学希望を捨て、祖父の学んだ鹿児島に進学したいと思うようになります。そして鹿児島大学を受験・合格、後に晴れて野球部のエースとなり、熊本大学との対抗戦に出場するという筋書きであります。

また、この映画は、旧制高校生たちが誇りと自覚を持って青春を謳歌した生き方や「さつま」の伝統的な郷中教育として地域社会がそれぞれを支える教育先進県としての風土を映し出したものでもあります。

末広

この映画は、来春には、鹿児島、そして秋に全国で封切られますが、鹿児島大学の名と教育先進県を全国にPRすることになると期待されます。

有倉

鹿児島大学同窓会連合会では、より多数の連合会役員並びに各学部同窓会の会員の方々に参加いただき、映画「北辰斜めにさすところ」を側面からの支援を求めています。

# 教師への道・出会った先生

## 「鹿児島県の教育を語る会」を開く

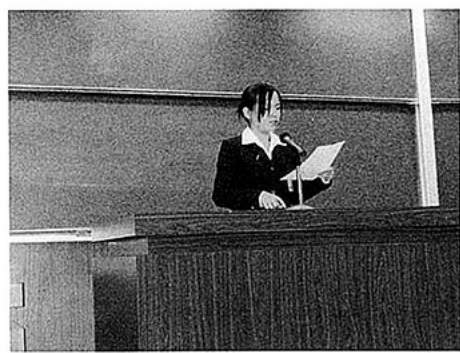


は、肝に銘じておきたいことである。「教師になろうと思っただ」のは、教育実習を経験して、とか自分の体験(部活、ゼミ、ボランティア等)で得たことを生かしたいからと続く。

次に、「教師になったら」として述べたことを列記すると、「生徒と共に人間として成長したい」「教師である前に、尊敬される人間となり、人として大切なことを教えた」「教科学習だけではわからないことがある。教科を通して人間教育を」「技術科の物づくりを人間づくりにつなげたい」「養護教諭としてできる人間教育を」「地域として交流し人間として信頼される教師に」などと、人間教育を力強く表明している。また、「生徒自らが授業の主体になるように」「転校を重ねて感じた。学校の立地する環境に則した教育を」「理科を通して自然を、そして人生を語り合う」「できる子、できない子両方の気持ちをわかってやりながら」「美術を通して、自己表現力を発掘してあげたい」「心に響く声をもって子どもに接する」「子どもの求めている支援に答えられるよう」などと、自分なりのねらいをこめた教育の方法をしっかりと考えている。

十八年十一月二十四日(金)に同窓会主催の第五回「鹿児島県の教育を語る会」が、鹿児島大学教育学部で開催された。各学科等の学生代表十六名の鋭意な発表がなされた。それぞれが、その経験や特技、教科等の専門性を基にしたがより広い教育への抱負を力強く語った。

まず、教育学部を卒業して「教師になりたい」と思った動機やその気持ちに拍車をかけたこととして、自分が小、中、高校、大学期に出会った教師の影響を挙げる発表者がある。その半数以上を数えた。「先生が自分に向く道を拓いてくれた」「人間味のある教師の姿から」「生徒を引きつけていた教師の存在。こんなふうにはなりたくないという反面教師もいた」「先生が学校で楽しいものと教えてくれた」「教育実習で親身に指導してくれた教師」「出会った素晴らしい教師への恩返しに」等々。後に続く若者を学校現場で待つ同窓会員として



の確かな抱負を持った若者が現場に投入されるならば、きっと「即戦力」として受け入れられるのではないかと考えた。

学生の発表の後、OB代表の発表がなされた。四十四年度卒の、現伊敷中学校長西之園眞氏は「伊敷中が目指すもの」として、いま何を指ししており、具体的な課題はなにか、これからどうあるべきなのかを語った。

三十九年度卒の現十島村教育長齊藤司氏はかつて生徒指導に尽力されておられた経験から「人間関係を深める褒め方・叱り方」を学校現場へ近々赴くであろう後輩へのはなむけとして語った。

会場には、学生諸君、大学の教官がた、OB同窓会員、その他、加えて同窓会役員等約六十名程が聴衆として出席していたが、「これらの素晴らしい発表を直接聴く人数としては少ない」との意見があったし、会場の大方もそう思ったことであろう。今後の運営課題である。

# 学年代表世話役

(数字は卒業年次)

- |    |       |    |        |
|----|-------|----|--------|
| 44 | 田口幸治  | 44 | 地頭方ミヨ子 |
| 43 | 山下一男  | 45 | 平澤光徳   |
| 42 | 富田次男  | 45 | 上林房時光  |
| 42 | 加藤六溢朗 | 46 | 中園政彦   |
| 41 | 加藤吉行  | 47 | 吉留孝信   |
| 41 | 海老原一男 | 48 | 永田憲太郎  |
| 40 | 大塚義雄  | 48 | 有村孝    |
| 40 | 大塚俊郎  | 49 | 上林房一正  |
| 40 | 町田洋一  | 50 | 藤田教夫   |
| 40 | 早水秀久  | 50 | 井上浩一   |
| 41 | 鬼丸正子  | 51 | 水之浦修   |
| 41 | 永田信道  | 51 | 田之上齋   |
| 32 | 新堂志和  | 52 | 寺師千歳   |
| 32 | 山下穂九郎 | 52 | 真邊省至   |
| 33 | 内木場三佳 | 53 | 東園和臣   |
| 33 | 東野利喜男 | 53 | 天野芳子   |
| 34 | 有馬俊次  | 53 | 大野清昭   |
| 34 | 本野一郎  | 54 | 脇黒丸悟   |
| 34 | 田畑喜久男 | 54 | 勝目吉昭   |
| 35 | 元山昌子  | 55 | 古賀政文   |
| 35 | 江口英雄  | 56 | 坂元裕人   |
| 35 | 吉盛国治  | 57 | 下向輝光   |
| 35 | 竹井勝志  | 58 | 駒走正二   |
| 35 | 鮫島寛行  | 58 | 有馬純一   |
| 36 | 福山孝一  | 59 | 川原浩亀   |
| 36 | 文城テツ子 | 59 | 岩元幸成   |
| 37 | 大迫征人  | 60 | 大平公明   |
| 37 | 柳山重遠  | 61 | 日置誠    |
| 38 | 田中純也  | 61 | 前田伸行   |
| 38 | 松山輝久  | 62 | 長元武彦   |
| 38 | 立山龍男  | 63 | 下原美保   |
| 39 | 横峯正之  | 01 | 前田博王   |
| 39 | 中野翠   | 02 | 山田吉夫   |
| 39 | 林賢一郎  | 02 | 福島三鈴   |
| 39 | 齋藤司   | 03 | 西淳一    |
| 40 | 吉峰明子  | 04 | 小久保博幸  |
| 40 | 西望    | 04 | 内野公貴   |
| 41 | 馬場大三郎 | 04 | 中村弘    |
| 41 | 福田賢治  | 05 | 渡辺直哉   |
| 42 | 川内野一弥 | 06 | 近藤陽介   |
| 42 | 早川良行  | 06 | 大脇茂久   |
| 43 | 高橋信夫  | 07 | 山之内太一  |
| 44 | 出口定昭  | 08 | 森安弘    |
| 44 | 西崎大策  | 09 | 上村修    |
|    |       |    | 藤島伸一郎  |

# 同窓会役員

- |    |            |    |       |
|----|------------|----|-------|
| 14 | 大園紀香       | 15 | 松下賢司  |
| 13 | 中村麻子       | 15 | 小牟禮雄一 |
| 11 | 税所賢太郎      | 16 | 矢野美由紀 |
| 11 | 馬越博之       | 16 | 黒岩真紀子 |
| 11 | 遠矢博貴       | 17 | 小原一慶  |
| 11 | 新名主幸二      | 17 | 喜世川匡  |
|    | 渡辺貴文       |    |       |
| 09 | 顧問 島田俊秀    |    |       |
|    | 顧問 坂尾隆     |    |       |
|    | 顧問 中山右尚    |    |       |
|    | 顧問 河原尚武    |    |       |
|    | 会長 松元兼俊    |    |       |
|    | 副会長 池之迫静男  |    |       |
|    | 副会長 松永郁男   |    |       |
|    | 理事 有馬暢洋    |    |       |
|    | 理事 上村睦郎    |    |       |
|    | 理事 犬馬場茂    |    |       |
|    | 同上 石神正明    |    |       |
|    | 同上 榎添利光    |    |       |
|    | 同上 福島嘉久    |    |       |
|    | 同上 松元桂子    |    |       |
|    | 同上 佐藤敦子    |    |       |
|    | 同上 橋野奈々代   |    |       |
|    | 同上 南孝一     |    |       |
|    | 同上 今林俊一    |    |       |
|    | 同上 新名主健一   |    |       |
|    | 同上 松清秀一    |    |       |
|    | 同上 植村哲郎    |    |       |
|    | 同上 藤島仁兵    |    |       |
|    | 同上 南貞己     |    |       |
|    | 同上 西種子田弘芳  |    |       |
|    | 同上 末吉靖宏    |    |       |
|    | 同上 福満博隆    |    |       |
|    | 同上 下原美保    |    |       |
|    | 同上 寺床勝也    |    |       |
|    | 同上 生野桂子    |    |       |
|    | 同上 川畑秀明    |    |       |
|    | 同上 佐賀義彦    |    |       |
|    | 同上 假屋園昭彦   |    |       |
|    | 同上 中原賢二    |    |       |
|    | 同上 平岡順義    |    |       |
|    | 同上 徳重潔     |    |       |
|    | 支部世話役 川崎芳夫 |    |       |

# 平成十八年七月

- |   |   |       |
|---|---|-------|
| 同 | 上 | 辰野吉郎  |
| 同 | 上 | 松山司郎  |
| 同 | 上 | 向原翼   |
| 同 | 上 | 宮田林志  |
| 同 | 上 | 松崎弘一  |
| 同 | 上 | 海江田幸雄 |
| 同 | 上 | 塚本孝行  |
| 同 | 上 | 川井田稔  |
| 同 | 上 | 羽生昌弘  |
| 同 | 上 | 竹下徹   |

# 編集後記

※二〇〇六年の世相を象徴する「今年の漢字」は「命」に決まった。

※会報八号では「紙上対談」で、四人の方々に青少年の命にかかわる深刻な問題について、ご意見をいただいた。

※二面では、前学部長中山右尚先生に「江戸時代の子どものたち」の玉稿をいただいた。

※鹿児島県の教育を語る会」は五回目となり充実してきた。

※西之園眞伊敷中学校長、齋藤司十島村教育長の話は在学生に感動を与えた。

※鹿児島大学同窓会連合会では、激動の昭和を生きた青春群像「北辰斜めにさすところ」の映画が来春封切られるので、同窓会の支援をお願いされている。

(池)